

## マレーシアPCIツアー

循環器科 吉田 雅言



4月にこちらへ転勤し、直後のゴールデンウィークにいきなり海外出張してしまいました。しかも身重の妻とふたりの子供を残して…でもあったので悩んだのですが行っちゃい

ました。

PCI=経皮的冠動脈インターベンション、狭心症や心筋梗塞のカテーテル治療をマレーシアの患者さんに行おう、というツアーですが、第一術者はもちろん私、ではありません。大阪大学の准教授でもあり野崎・名古屋・大垣徳州会病院心臓センター長をされておられる角辻暁先生が第一術者で、私はその補助を務めました。いろいろな学会・研究会などでお世話になり、今回誘って頂きました。月に数度中国・台湾や東南・中東アジア諸国にも出張されているそうです。5月2日にマレーシアペナン島入りし、3日同島にてPCI、クアラ Lumpur へ移動し、4日・5日とPCI、5～6日にかけての深夜便で関空へ、というかなり濃い日程でした。世界有数のリゾート地にもかかわらず、基本的に訪れたのは病院とホテルと空港『のみ』…でしたが、最高に充実していました。

PCIはいずれも『慢性完全閉塞病変』という最も難しいとされている症例ばかりで、現地の医師がfailure(失敗)に終わった病変などが主体でした。あらゆる手技が眼前で繰り広げられ(マニアックなので省略しますが)、ほぼ全例が成功に終わりました。いきなり角辻先生のようにやるのはもちろん無理ですが、世界トップレベルの技術を目の当たりにでき、自己研鑽につながったと思います。本当に幸せな連休でした。快く送り出してくれた院長先生や上司、同僚、そして家族に深く感謝しております。ありがとうございました。

## 海外出張報告

## Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Asia Pacificに参加して

循環器科 越智 耕平



TCTAP(Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Asia Pacific)へ参加させて頂きました。冠動脈をはじめ、頸動脈・下肢動脈などカテーテル治療に関する学会です。毎年、ソウルで開催され、アメリカ・韓国・日本をはじめ東南アジアからの出席・発表が多いようです。

世界初の薬剤溶出性ステント(DES)が登場し、日本で臨床実用化され始め5年を経過しました。DESは、血管を開通させておくのにはベアメタルステントよりも効果的ですが、別のリスクを伴うこともあります。一部の研究では、DESを留置した場合、ベアメタルステント(BMS)を留置した場合よりも、留置したステント内に血栓が形成されるリスクが高い可能性があることが示唆されています。現在までに5種類のDESが使用可能となっていますが、約半年前より使用可能となりました薬剤溶出性ステント「Endeavor」の日本の先行使用の結果などを踏まえ、これからのDES時代にどのような病変に対し、どのDESが適しているのか勉強させて頂きました。(EndeavorはDESとBMSの中間の位置づけという意見の先生が多かったです)

また、左冠動脈主幹部病変へのPCIのライブデモンストレーションを見学しましたが、症例や術者によって多少の違いはあるものの、技術的(ステントの留置方法など)には日本とほとんど変わらない印象を受けました。

最後に、参加を勧めて下さった吉野先生(前循環器部長)、招待して頂いたMedtronicさんに感謝し、報告とさせて頂きます。



## 2010 DIGESTIVE DISEASE WEEK (DDW)に参加して

消化器科 久米 美沙紀



このたび、5月にアメリカのニューオリンズで開催されましたDDW(米国消化器病週間)に参加させて頂き、Comparison with contrast enhanced ultrasonography with Sonazoid® and FDG PET/CT for hepatic metastasis from gastrointestinal tract cancer 消化管癌肝転移スクリーニングにおけるソナゾイドの診断能(PET-CTとの比較)についてポスター発表して参りました。

DDWはアメリカの消化器系の複数の学会が同一期間に開催される学会で、世界中から16,000人ほどの参加があるようです。学会では主にポスター発表をみて回りました。消化器関連の検査の費用対効果に関する発表が散見され、コスト意識に強い関心が寄せられているように感じました(大腸検診の便潜血1回法vs2回法のcost benefitについて、悪性胆道狭窄に対する検査方法としてERCPを第一とするかEUSを第一とするか、など)。

ニューオリンズは、アメリカ南部、ミシシッピ川がメキシコ湾に注ぐルイジアナ州にあるエキゾチックな町です。高温多湿で、湿度が90%台になる日もあるとのこと。ニューオリンズはジャズ発祥の地ですが、バーボン通りは夜中も大勢の酔っぱらった人であふれていて、あちこちにある扉全開のライブハウスやお店から様々なジャンルの音楽が大音量で聴こえてくるとてもにぎやかな街でした。一方、ニューオリンズの中心地のフレンチクォーターは、19世紀の町並みが残っている、街全体がアンティークのような所で、馬車も走っているととても素敵でした。

初めての国際学会でしたが、とても刺激を受け、貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。

